

エセーニン記念

リヤザン国立大学

Рязанский Государственный Университет
имени С.А.Есенина

日露青年交流センター

第20回日本語教師派遣事業

帰国報告書

土井 法子

1. 年間業務日程

9月	<ul style="list-style-type: none"> ・前期講義開始(3日～) ・日露青年フォーラム(25日) ※教育学部の4年生、5年生は教育実習のため大学での授業はなし(10月より開始)	前期
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・科学の日(19日・20日) ・落語の行事(22日) ・第31回モスクワ国際学生弁論大会及び教師会(26日・27日) 	
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・日本文化に関する行事(26日～28日) 	
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・モスクワ日本大使館主催「日露草の根交流事業」(3日・4日) ・外国語学部創立記念日(10日) ・前期講義終了(下旬) 	
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・年始休み ・試験期間(中旬) 	
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・後期講義開始(7日) 	後期
3月		
4月		
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・大型連休(1～5日・9～12日) ・4年生、5年生講義終了(中旬) ・リャザン大学弁論大会(17日) ・日本文化祭(18日) 	
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・1、2年生講義終了(下旬) 	

2. 赴任校の概要

大学名:

エセーニン記念リャザン国立大学

Рязанский Государственный Университет имени С.А.Есенина (РГУ)

Ryazan State University

学長:

ジージン・アレクセイ・アレクサンドロヴィチ・

Зимин Алексей Александрович

Zimin Aleksey Aleksandrovich

学部・学科名:

外国語学部

Институт иностранных языков

Institute of foreign languages

・東洋言語教育学科

Кафедра восточных языков и методики их преподавания
Department of Oriental Languages

・言語学・異文化コミュニケーション学科

Кафедра лингвистики и межкультурной коммуникации
Department of Linguistics and Intercultural Communication

・ゲルマン言語教育学科

Кафедра германских языков и методики их преподавания
Department of Germanic languages and Methodology

大学の所在地:

Россия 390000、Рязань、ул. Свободы、д.46
46、St. Svoboda、Ryazan、390000 Russia

連絡先:

【電話番号】(4912)28-14-35, 27-28-68

国際部担当者:

オレグ・スリツァ

Сулица Олег Андреевич (Sulitsa Oleg Andreevich)

【電話番号】(4912)28-14-35

日本語教育コース設置年: 2000年

日本語コース責任者:

・外国語学部東洋言語学科学科長

シュムーネル・アレクサンドラ

Шмунер Александра Семеновна (Alexandra Shmuner Semyonovna)

【電話番号】(4912) 28-13-14

日本語コースカリキュラム:

日本語コースを設けている上記三学科の全てに対して「総合日本語」の授業が行われる。

日本語を主専攻とする学生は、専門科目も履修しなければならない。

日本語履修学生数及びそのレベル:

学年	第一外国語	第二外国語		合計	報告者 担当数	日本語 主専攻 JLPTレベル
	東洋言語 学科	教育学 (教師養成)	言語学			
1年生	7			7	0	N5
2年生	8	7	0	15	8	N4
3年生	5	8	5	18	18	N3
4年生	6	3	0	9	9	N2
5年生		5		5	5	
合計	26	28		54	40	

日本語教師数:

ロシア人教師4名、日本人教師3名

日本語履修学生の卒業後の進路:

モスクワの日系企業で働く学生もいるが、日本語とは関係のない進路に進んでいる学生も多い。赴任校で日本語教師として働くこともできるが、大学院を卒業していることが条件。

3. 赴任者の日本語教育業務

主に2年生から5年生までの中・上級日本語、及び「日本史」等の専門科目を担当。

赴任者の担当講義:

東洋言語学科 2年生(8名) 第一外国語
<p>・「日本語」90分×1コマ/週 (後期)</p> <p>教材:『初級からの日本語スピーチ』、過去のスピーチコンテストのスピーチ例</p> <p>活動:教材をもとに、スピーチの作り方から練習までを行った。毎回、授業のはじめには教材のCDを聞き、リスニングを行い、内容を把握させ、その後ディクテーション用紙に聞き取れた内容を記入させた。また、リスニングの後にロシアや日本の文化や社会について話し合う時間を設けた。</p> <p>全体の講義内容は以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「良いスピーチとは何か」について考える ・スピーチの動画例を見たり、いくつかのスピーチの比較を行う ・教材を中心に、スピーチの形式やスピーチで使う語彙を学ぶ ・スピーチの作成と発表 <p>評価:ザチョット(スピーチの作成及びスピーチで総合的に可否を評価した)</p> <p>所見:いくつかのスピーチや過去のスピーチコンテスト優勝者のスピーチの例を見せることは効果的に感じた。また、個別に練習を行い、声を録音させるなど発音やアクセントに留意し練習を行った結果、話すことに対して自信を持てるようになった学生が増えたように感じた。多くの学生が弁論大会に参加し、スピーチをすることができた。</p>

東洋言語学科 3年生(5名) 第一外国語

・「日本語」90分×1コマ/週 (前期・後期)

教材:『ベーシック漢字』、『読解をはじめるあなたに』

活動:教材を中心に漢字の意味や成り立ち、語句や熟語などを扱った。毎回授業のはじめに小テストを実施した。また、新出漢字をまず授業の導入部分で提示し、理解度を確認してから授業に入った。授業の終わりには毎回読みと書きの確認チェックを行った。また、後期の授業ではレベルに合わせて漢字の後に、読解の演習を行った。

評価:ザチョット(漢字の読み40%、書き60%の記述式問題から合否を評価)

所見:毎回小テストを行うことは知識の定着に効果的である。また、授業では教材に記載されていない語句やことわざも紹介した。漢字だけでは単調になりがちなので、後期からは読解の課題を加えた。5名のうち2名は半年間日本へ留学した経験もあり、また全体的に日本語能力の高い学生が多く教材以外の語句も意欲的に学んでいた。

東洋言語学科 4年生(6名) 第一外国語

・「日本語」90分×2コマ/週 (後期)

教材:『上級へのとびら』、『国境を越えて』、『実用ビジネス日本語』、『日本人の心がわかる日本語』

活動:2月から3月中旬までは主に『上級へのとびら』、『国境を越えて』の教材を使用し、読解の授業を行った。毎回授業の前にテキストを予習させ、授業では内容について説明をしたり、テーマについて日露比較を行った。また、文法については別途教材を準備した。3月中旬から5月まではビジネス日本語の会話練習を行った。『実用ビジネス日本語』の教材をもとに、①自己紹介②他の人を紹介する③挨拶のしかた④電話の取り方⑤同僚との会話⑥部長との会話をテーマに敬語や決まり文句を学び、会話練習を行った。また、同時に『日本人の心がわかる日本語』を使い、内と外など日本人の精神性に関する文章の読解も行った。

評価:ザチョット(読解問題50%、ビジネス日本語50%の記述式問題から合否を評価)

所見:理解力のある学生たちであり、教材のレベルは最適であった。また、ビジネス日本語は敬語や日本の会社で働くための文化も学ぶことができた。

教育学部 3年生(8名) 第二外国語

・「日本語」90分×2コマ/週 (前期)

教材:『みんなの日本語』、『おたすけタスク』、『新日本語の基礎クラス活動集101』『会話に挑戦』『ベーシック漢字』

活動:会話と漢字の授業を1週間に1コマずつ行った。会話の授業は主に『みんなの日本語』の教材に合わせて適宜活動集を活用し、実践的な会話練習を行った。また、後半からは『会話に挑戦』の教材を利用し場面別の日本語会話の練習を行った。漢字の授業では他クラス同様、漢字の意味や成り立ち、語句や熟語などを扱った。毎回授業のはじめに小テストを実施した。

所見:会話の授業はロシア人教師と授業の進度を合わせ相談しながら実施した。

評価:ザチョット(漢字の読み 40%、書き 60%の記述式問題から合否を評価) 会話については他教員が評価した。

・「日本文化」90分×2コマ/週 (前期)

教材:『クローズアップ日本事情15』、『イラスト日本まるごと事典』、『日本の暮らし12か月』、自作教材

活動:日本文化に関する講義や体験を行った。毎回授業の前に自作教材プリントの読解を行わせ、授業内で内容を確認する。また、適宜、日本文化の体験を行った。

全体の講義内容は以下の通りである。

①日本の行事、祝日②日本の衣食住③日本のスポーツ④遊び(折り紙、あやとり)⑤日本の伝統芸能や文化、音楽⑥日本の教育と政治⑦茶道、書道、浴衣の着付け、折り紙体験、歌舞伎や伝統音楽、落語の鑑賞

評価:ザチョット(主に日本文化に関する記述式問題から評価)

所見:日本語の理解度が初級レベルであり、日本語で説明するのは非常に難しいため、適宜動画がイラストなどを使用し、視覚的に理解できるように努めた。また、週2コマと時間数が比較的多かったため、茶道や書道など日本文化を体験できる時間を設けることができ、学生も意欲的に取り組むことができた。

・「日本語」90分×3コマ/週 (後期)

教材:『初級からの日本語スピーチ』、『日本語能力試験対策にほんごチャレンジ』、『読解をはじめめるあなたに』、『ベーシック漢字』

活動:1コマずつ「スピーチ」「読解」「漢字」の授業を行った。

スピーチの授業では、東洋言語学科2年生と同様の形式で行った。また、定期的にプレゼンテーションの発表を実施した。プレゼンテーションのテーマは「私の好きなこと」「ロシアの文化」「ロシアと日本の観光地を紹介する」「ロシアの有名な〇〇」などである。

読解の授業では事前に教材を予習させ、授業内で新たな文法や語句の説明を行った。漢字の授業では書き方や部首に注意し、漢字の意味や成り立ち、語句を学んだ。

評価:ザチョットと試験及び授業参加率

所見:学生たちはプレゼンテーションの課題に対し毎回ユニークな発表を準備し、わかりやすく発表することができていた。

教育学部 4 年生(3 名) 第二外国語

・「日本語」 90 分×1 コマ/週 (前期)

教材:『みんなの日本語』、『おたすけタスク』、『新日本語の基礎クラス活動集101』
『会話に挑戦』

活動:『みんなの日本語』の教材に合わせて実践的な会話練習を行った。また、後半は『会話に挑戦』の教材を使用し、ディクテーションから会話練習まで行った。会話のテーマは病院での会話、指示を聞く、友達を励ます、料理など教材に合わせたテーマを取り扱った。

評価:ザチョット

所見:『会話に挑戦』の教材はリスニングの練習にもなり、使いやすい教材である。

・「日本史」 90 分×1 コマ/週 (前期)

教材:自作教材(『留学生のための日本史』をもとに)、NHK for School 日本史

活動:原始時代から明治時代までの日本の歴史を教えた。自作教材を事前に配布し、予習をさせ、授業で語句や意味の確認を行った。また、適宜動画 NHK for School 日本史を使い内容を視覚的に理解できるように努めた。毎回授業の最初に前回の授業で行った内容を確認した。

評価:ザチョット(記述式問題から合否を評価)

所見:初級レベルの学生に対し、日本語のみで日本史を説明するため動画や視覚教材を使うなど工夫を必要とした。

教育学部 5 年生(5 名) 第二外国語

・「日本語」 90 分×1 コマ/週 (後期)

教材:『みんなの日本語』、『日本人の心がわかる日本語』

活動:『みんなの日本語』の文法解説から会話練習までを行った。教科書の進度に合わせてリスニング、読解、作文を行った。また、適宜日本文化に関する読解の演習を行った。

評価:ザチョット(他教員が評価した)

所見:理解度の高い学生であり、授業も盛り上がる。『みんなの日本語』だけでなく、少しレベルの高い読解教材を使用した。

言語学部 3 年生(5 名) 第二外国語

・「日本語」 90 分×1 コマ/週 (前期)

教材:『みんなの日本語』、『おたすけタスク』、『新日本語の基礎クラス活動集101』

活動:『みんなの日本語』の文法解説から会話練習まで行った。教科書の進度に合わせてリスニング、読解、作文を行った。

評価:ザチョット(記述式問題から合否を評価)

所見:言語学部は授業数が少なく、授業の進度が遅いのが難点である。ロシア人教師と進度について相談しながら授業を行った。

・「日本文化」90分×1コマ/週（前期）

教材：『クローズアップ日本事情15』、『イラスト日本まるごと事典』、『日本の暮らし12か月』、自作教材

活動：日本文化に関する講義や体験を行った。毎回授業の前に自作教材プリントの読解を行わせ、授業内で内容を確認する。また、適宜、日本文化の体験を行った。

全体の講義内容は以下の通りである。教育学部3年生の授業でも同じテーマを取り扱ったが、授業数が少ないことから内容を少し簡略化した。

①日本の行事、祝日②日本の衣食住③日本のスポーツ④遊び(折り紙、あやとり)⑤日本の伝統芸能や文化、音楽⑥日本の教育と政治⑦茶道、書道、浴衣の着付け、折り紙体験、歌舞伎や伝統音楽、落語の鑑賞

評価：ザチョット(主に日本文化に関する記述式問題から評価)

所見：教育学部3年生と同様、日本語の理解度が初級レベルであるため、日本語で説明するのは非常に難しい。また、授業時間数も少ないためテーマを厳選する必要があった。

・「日本語」90分×1コマ/週（後期）

教材：『例文で学ぶ漢字』、『ベーシック漢字』、『コミュニケーションのための日本語発音レッスン』

活動：主に漢字と発音の授業を行った。漢字の意味や成り立ち、語句や熟語などを扱った。毎回授業のはじめに小テストを実施した。

評価：試験(漢字の読み40%、書き60%の記述式問題)と授業参加率

所見：前期でロシア人教師が使用していた『例文で学ぶ漢字』を引継いだ。『ベーシック漢字』のほうに英語表記もあり、授業数の少ない言語学部の学生にとって使いやすいように感じた。

課外活動：

- ・リャザン国立大学主催弁論大会、日本文化祭の運営、茶道と折り紙、切り絵指導
- ・日露青年フォーラム参加
- ・外国語学部創立記念行事のための折り紙と切り絵指導
- ・モスクワ国際学生日本語弁論大会及び教師会参加
- ・その他日本文化に関する行事の運営補佐

弁論大会に関する報告：

今年度は11名の参加者がスピーチを行った。総参加者数は例年通りだが、今年は3名の一般参加があった。全体の運営は手順良く進めることができた。今年はロシア人教師にもスピーチ原稿のチェックなどをお願いした。審査員は国際交流基金の黒岩幸子先生、モスクワ市立大学の太政美南先生、昨年度優勝者、及び日本人留学生に協力していただいた。

反省点と今後の展望：

2年目ということもあり、初年度に比べ授業や行事など様々な行事を段取りよく行うことができた。今年度も日本文化祭をはじめ日本文化に関する行事が数多く行われ、運営に関わったり、補佐させてもらうことができた。青年交流や学外での活動については場所の確保や時間の制限があり、実施することができなかったが、今年度は本学に日本人留学生が3名在籍しており、学内の日露プログラムが盛り上がっていたため、日本文化に関するイベントが複数行われていた。授業では日本語の授業に加え、日本史や日本文化に関する

る授業を行うことができた。一方で、毎期ごとに授業計画を立て学生にも授業の目的などを伝えてはいるものの、授業数の変更や他の授業との進度などの要因から途中で内容を変更せざるを得ないときもあったため、臨機応変に対処するよう心掛けた。

4. 青年交流:

・「日露青年フォーラム」参加

9月に実施された青年フォーラムに参加。日本人やロシア人と交流し、様々な社会問題についてのディスカッションを聞くことができた。

・「リャザン国立大学日本文化祭」運営

開閉会式の運営準備を行った。また、文化祭では教員と学生が様々な日本文化に関するセクションを担当するが、報告者は茶道と切り絵と折り紙を担当した。今年は来客により楽しんでもらうよう、セクションの数を増やし、留学生にも協力してもらった。

5. 任地の生活事情:

①電気・水・温水の供給状況

赴任中に3回停電が起こった。一度は2時間ほど長引いたが、あとは30分以内に復旧した。

水は時折茶色の水が出るが、特に生活には問題ない。水道水は直接飲まないほうがいい。フィルターで濾過するか、購入する。

②生活必需品

歩いて行ける範囲にスーパーが何店舗もあり、非常に便利である。また、大型ショッピングモールへも無料バスなどで容易に行くことができる。

③衣・食・住居

衣料: 大型ショッピングセンターへ行けば何でも購入できるが、日本のものに比べて質が悪く、値段設定も高めである。

食料: スーパーで購入できる日本の食材は、醤油、インスタントの味噌汁、海苔やわさびなどがある。報告者はほとんど自炊して生活した。また、自宅の近くにはレストランやカフェもある。

住居: 大学から徒歩10分程度の場所に位置しており非常に便利である。部屋はセントラルヒーティングがあるため、冬でも非常に快適である。

④交通の便

市内にはトロリーバスやバス、マルシュルートカが多数走っており、運賃は23ルーブル。他の都市へ電車で行く際は、モスクワ経由であることが多い。また、ニジノブゴロドやサンクトペテルブルクへは寝台列車が利用できる。一方、バスは中央バスターミナルからコロムナやモスクワ行きのバスがある。また、タクシーはアプリを使って簡単に利用することができる。

⑤治安状況

リャザンはロシアの中でも治安が良いと言われてはいるが、暗くなると大通りでも人気がなく、大通りから外れると街灯もない道も多い。夜遅くなる場合はタクシーを利用したほうがよい。

6. 終わりに:

二年目は授業や業務、ロシアの生活にも慣れ、大きな問題もなく過ごすことができた。定期的に行われる日露文化交流イベントや日本文化関連行事では運営の補佐をしたりと多くのことを勉強することができ、また多くの方と交流する機会にもなった。日本語の授業では一年目とはまた異なる授業を受け持たせてもらい、日々試行錯誤しながら取り組んだ。また、今年も日本人留学生が数名在籍しており、大学内には日露クラブというクラブ活動も行われており、本学で草の根レベルの文化交流が続いていることがわかる。一方で、今年

は学科から三名ほどが日本へ留学したりと、少しずつではあるがロシアから日本へ学びに行く学生もいる。この二年間の任期中、日本語だけでなく日本文化について授業や課外活動を通して伝えたいという思いがあり活動を行ってきた。それが少しでもリャザンの人たちに伝わっていたら嬉しく思う。

最後に、在ロシア日本国大使館の皆様、国際交流基金の皆様、ロシア国内の日本語教育関係者の皆様、現地での生活のサポートをしてくれた大学の同僚や友人たち、そして、日本からいつも支えてくださった日露青年交流センターの皆様に、深くお礼申し上げたい。